

補助金の基礎知識～設備投資の計画は毎年9月に！～

年末年始に年間の計画を立てる方も多いかと思いますが、設備投資の予定がある場合は、補助金活用を睨んで投資時期を例えば毎年9月などの秋口に決めてみるてはいかがでしょうか。

12月13日に令和元年度補正予算の発表がありました。3年分の中小企業の生産性向上対策として3,600億円（昨年1,100億円）が、消費税増税による景気減速対策として確保され、ものづくり補助金等の予算拡大が期待されています。

補助金活用で大きくネックになってくるのが補助金ごとに決まったスケジュールに合わせにいく必要があるということです。というのも、補助対象になる設備投資は「交付決定」が降りた後に発注したものが対象になります。そのためそれ以前に発注したり購入・設置したりしたものは対象になりません。補助金活用には事前の計画性と、実際に公募が始まって確定したスケジュールに合わせる柔軟性が必要になります。

しかし一方で、スケジュールはおおよそ毎年決まっていますので予測がつきます。例年年末頃に補正予算の内容が発表になり、翌年1年間かけてスケジュールが動いていきます。ものづくり補助金のスケジュールの進み方を以下の表にまとめましたのでご参照ください。ものづくり補助金以外の小規模事業者持続化補助金やIT導入補助金等も補正予算の発表時期は同じなので、似たようなスケジュールで進んでいきます。

ものづくり補助金1次公募の例年のスケジュール

3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌1月	翌2月
公募申請											
			採択発表								
				交付申請→交付決定							
						発注～設備導入					
								実績報告			
											補助金支給
3月上旬～4月中旬		5月		6月		7月		8月		9月	
： 公募申請		： 採択発表（公募締切から50日程）		： 交付申請⇒交付決定		： 交付決定後～12月末		： 設備導入		： 設備導入～翌年1月末	
										： 実績報告（夏公募開始でもここからは同じ）	
										： 補助金支給	

交付決定後に発注した
設備投資が補助対象

まとめ

- ・補助金のスケジュールはだいたい毎年決まっている
- ・設備の発注、設置は「交付決定」の降りた後に行う必要がある
- ・ものづくり補助金他多くの補助金が春に公募開始され、夏頃に採択・交付決定となり、交付決定以降、年内にかけての設置が必要
- ・ものづくり補助金の存在から実際に日本の機械設備の取引が秋口に集中しているとの話も
- ・毎年設備投資時期を決めておくと計画が立てやすい